

ヤリイカ釣り

ヤリイカは北海道から九州までの日本列島沿海域に棲息するイカで、釣りの面白さもありますが、食味の良さから釣り人から人気のターゲットとなっています。早春は産卵のために沿岸部に集まってきますが、その他の時期は水深 100 メートル以深に分布し、スルメイカと同様に沖合で狙うことが多く、水深が深いところから届く小さなアタリ(乗り)をキャッチする必要があります。



ヤリイカの握り寿司、絶品です

実は先日、外房(千葉県)沖でヤリイカを狙っていた時のこと、後方から船のエンジン音が聞こえたので振り返ると、1 隻の漁船がコチラに向かって走ってきました。その漁船までの距離は 300 メートルほどあったので私は大して焦る気持ちもなく、そのままヤリイカ釣りを続け、時々振り返ってその漁船の動向を確認しつつ、やがては舵を切って進路変更するものだと思っていました。しかしながら、その距離が 100 メートルくらいにまで接近しても進路変更することなくコチラに向かってくるので、もしや前を見ていないかも・・・と心配になり、大慌てでマイボートを急発進させ、9 時の方向へ大きく移動させました。

もちろん、ヤリイカ用の仕掛けを回収する余裕がなかったのも、仕掛けを海中に残したままボートを走らせ、間髪を避けることができず胸を撫で下ろしました。

距離にして 20 メートルほどのところを何事もなかったかのように走り去っていく漁船には後部デッキに 2 名の乗船者が見えましたが、操舵室には誰もいなかったように思えます。もしかしら、船は自動操縦に任せ、前方を確認しないまま後部デッキで何か作業を行っていたのかもしれませんが。

小さなボートは波やウネリによって船体が見え隠れしやすいので他船からその存在を発見されやすいように旗を高く揚げるのが推奨されています。しかしながら旗を揚げたことで安心するのではなく、常に見張りを励行する必要があるのは言うまでもありません。

今回の一件で私は以下のことを感じました。

- ・旗やスパンカーは横方向から見ると目立つが、後方(風下側)からは目立ちにくい
- ・後方(風下側)からの他船のエンジン音は聞こえにくい



横方向からは旗もスパンカーも見えやすい



風下側からは旗もスパンカーも見えづらい

そして、接近してくる他船があったら、“もしかしら自船の存在に気づいていないかもしれない”と考え、いつでも危険を回避する心構えが必要だと、痛感しました。

海の安全推進アドバイザー 小野信昭



沖合で狙うことの多いヤリイカ